

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 53人

② 算数 53人

5 留意事項

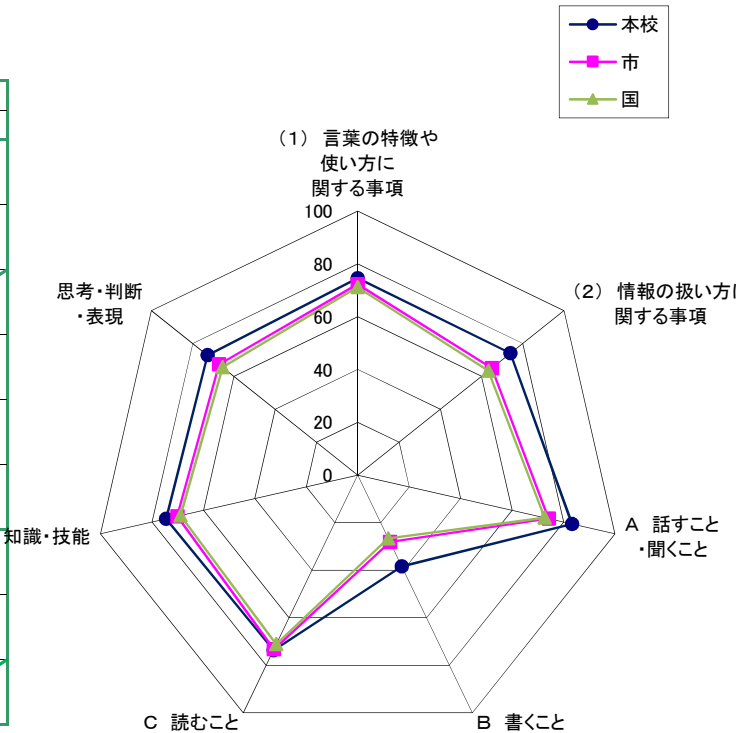
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	74.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	83.3	74.2	72.6
	B 書くこと	38.5	28.2	26.7
	C 読むこと	73.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	74.5	70.2	68.9
	思考・判断・表現	72.8	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

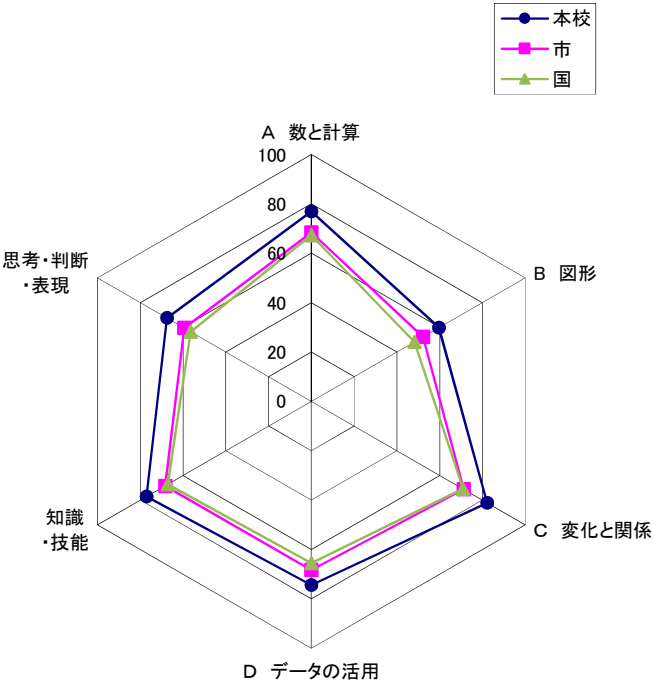
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○全体の平均正答率は74.6%で、市の平均を2.3ポイント上回った。 ○文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる設問では、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。 ●漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る設問では、県の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字について習熟を図るとともに、今までに学習した漢字についてもミニテストやまとめのテストを実施することで、確実に習得できるようにする。 ・漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるよう、繰り返し練習していく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○全体の平均正答率は74%と、市の平均を9ポイント上回った。 ○原因と結果など、情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問では、県の平均正答率を12.5ポイント上回った。情報と情報とを関係付けて考える力に良好な状況が見られる。	・授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する活動を充実させ、目的に応じて情報を活用する力を身に付けられるようにする。 ・社会の授業で情報と情報とを関係付けて考えたり、総合的な学習の時間等での発表で、複数の情報を関係付けて発表したりすることで、目的に応じて情報を活用したり、理解したりする力を身に付けられるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○全体の平均正答率は83.3%と、市の平均を9.1ポイント上回った。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問の平均正答率は84.6ポイントで、県の平均正答率を11.8ポイント上回った。話し合いの中での確に自分の考えをまとめることに良好な状況が見られる。	・授業において、自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えを伝え合う活動を充実させることで、目的や意図に応じて話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を身に付けられるようにする。 ・朝の1分間スピーチや総合的な学習の時間における発表など、目的や意図を明確にして話す機会を定期的に設定し、個々の成長を促す。
B 書くこと	○全体の平均正答率は38.5%と、市の平均を10.3ポイント上回った。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問では、市の平均は上回ったものの、正答率は低く、条件に合わせて文章を書くことについて課題が見られた。	・国語の授業だけでなく他教科の学習とも関連を図りながら、自分の立場や考えを明確にして文章を書く機会を意図的に設定する。 ・今後も作文指導だけでなく、新聞作りや学習の振り返りなどのいろいろな場面において、自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じて文章表現の技能を高めていけるようにする。
C 読むこと	○全体の平均正答率は73.7%と、市の平均を0.4ポイント上回った。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる設問では、県の平均を6.2ポイント上回った。 ●目的に応じて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問では、県の平均正答率を4.8ポイント下回った。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・物語文の学習では、叙述や描写を基に、登場人物の気持ちや人物像を捉えられるよう、繰り返し指導していく。 ・説明文の学習では、文章と図表との結び付きを確認するなど、双方の理解を基に、文の主旨や内容を把握できるよう指導していく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.9	68.4	67.3
	B 図形	59.6	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	82.2	71.2	70.9
	D データの活用	74.4	68.3	65.5
観点	知識・技能	77.1	68.4	67.2
	思考・判断・表現	67.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○全体の平均正答率は76.9%で、市の平均を8.5ポイント上回った。 ○筆算の仕方を説明した図を基に、段階に応じた商の式を選ぶ設問の正答率は75.0%で、市の平均を23.6ポイント上回った。 ●示された場面について式や言葉を用いて表現し、条件に当てはまるかどうかを判断する設問では、正答率は61.5%と市の平均を10.1ポイント上回ったが、無回答率もやや高く、伸び悩んだ。	・ドリル学習や習熟度別学習を通して、四則計算が着実に身に付いてきている。計算の技能をさらに高めていくために、今後も繰り返し学習し、定着を図っていく。 ・日常生活の場面を数理的に捉え、数学的に表現したり、処理したりすることに課題が見られる。問題の内容をイメージできるように図式化したり、自分の考えを式を用いながら説明する活動を取り入れたりするなど、計算の結果と求められている条件を基に判断・表現する力を高めていく。
B 図形	○全体の平均正答率は59.6%で、市の平均を10.0ポイント上回った。 ○正方形の意味や性質を理解しているか問う設問では、正答率は90.4%と高く、市の平均を3.0ポイント上回った。 ●正三角形の意味や性質を理解しているか問う設問の正答率は28.8%で、市の平均を4.2ポイント上回っているものの、芳しくない結果である。 ●高さの等しい三角形の面積の大小を判断し、数や言葉を用いて表現する設問では、正答率は38.5%と市の平均を6.0ポイント上回っているものの、伸び悩む結果となった。	・図形の性質について考察することに課題が見られるため、図形の観察や構成、分解などの操作活動を通して、図形の見方を深めるとともに、実感を伴って理解できるようにしていく。 ・図形を構成する要素とその関係に着目し、図形を弁別できるようにするとともに、基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにしていく。
C 変化と関係	○全体の平均正答率は82.2%で、市の平均を11.0ポイント上回った。 ○二つの数量関係が比例の関係ではないことを、表の数を用いて説明する設問では、正答率は94.2%と高く、市の平均を5.2ポイント上回った。 ○示された基準量と比較量から、百分率で表された割合を正しく選択する設問の正答率は69.2%で、市の平均を21.3ポイント上回った。	・示された割合から基準量を具体的に決め、それに対する比較量を捉えることができるようにするため、図や数直線を用いて二つの関係を視覚的に表すことで、児童が実感を伴って理解できるように努める。 ・二つの数量の間にどのような関係が成り立つかを予想し、数や場面を変えても同じように関係が成り立つかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりすることなどを通して、二つの数量の関係について考察する力を育てていく。
D データの活用	○全体の平均正答率は74.4%で、市の平均を6.1ポイント上回った。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問の正答率は84.6%と高く、市の平均を6.7ポイント上回った。 ●二つの棒グラフを比較し、見出した違いについて数や言葉を用いて表現する設問では、正答率が61.5%と市の平均を1.8ポイント上回ったものの、やや振わない結果となった。	・日常生活の事象について、目的に応じて、適切な分類・整理の仕方やグラフの表し方を判断し、データの特徴や傾向に着目して考察することができるよう、社会科や総合的な学習の時間など他教科とも関連させて、データを分析する経験を積むことができるようにしていく。 ・児童の興味・関心や問題意識に基づいてデータを収集し、円グラフや帯グラフに表したり読んだりすることを通して、データの特徴や傾向を捉え、結論を導いたり、結論について考察したりすることができるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的回答は、すべて全国・県の平均を上回っている。このことから、規則正しい生活の大切さを理解しており、好ましい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。引き続き、家庭と連携していきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」、また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、当てはまると回答した児童の割合が全国・県の平均を上回っている。しかし、当てはまらないと回答した児童もわずかに見られた。児童が自分のよさに気付けるように、学習や生活の様々な場面において、互いのよさを認め合う機会を増やしていきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は、全国・県の平均をやや下回っている。キャリア教育のより一層の充実を図り、将来を見据えて学んでいける環境を整えていきたい。

●「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全国・県の平均をやや下回った。困っている友達に手を差し伸べる姿を称賛したり、助けてもらったことへの感謝を伝え合う活動を行ったりして他者との関りを深め、規範意識や自己有用感を高めていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、ともに肯定的回答が全国・県の平均を上回っている。このことから、自己の向上に努めたり、自他の考えを尊重したりしていることがうかがえる。今後有意義な学校生活を送り、認め励まし合えるような人間関係作りに努めていきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」では、30分以上読書をしている児童の割合が全国・県の平均と比べると高い。また、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」では、50%以上の児童が週に4回から月に1～3回程度行くなどと回答している。「読書が好きですか」でも、70%以上の児童が肯定的回答をしている。これからも日常的に読書に親しめるように、学校図書館や地域の図書館を利用できる恵まれた環境を生かして、指導を充実させていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定割合は、ともに全国・県の平均を上回っている。このことから、地域の方々が学校行事に熱心に協力してくださることや、地域の行事が身近にあることが本校のよさであり、それを児童もしっかりと学びとっていることがうかがえる。一方、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対する肯定的回答は全国・県の平均をわずかに下回った。地域の方への感謝の気持ちをもちと共に、地域を担う一員としての自覚をさらに高められるようにしたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、79.2%の児童が週3回から毎日使用したと回答するなど、全国・県の平均を大きく上回った。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」への肯定的回答が96%を超えた。ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びや主体的・対話的で深い学びの充実を図っていききたい。

宇都宮市立昭和小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自ら考え分かりやすく表現できる児童の育成	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にして、話したり文章にまとめたりするよう指導している。	国語の「書くこと」についての平均正答率は38.5%と市の平均を10.3ポイント全国を11.8ポイント上回っている。また、算数の記述式の問題の平均正答率は57.7%と全国を10.4ポイント、県を9.3ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年に2回学力アップ月間を設けている。各学年ごとに家庭学習に取り組む目標を決め、「がんばりカード」に取り組んだ内容や時間を記入し、家庭でも確認してもらうことを通し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図っている。	「家で計画を立てて学習していますか」の肯定的回答が77.4%と全国・県の平均を上回った。月曜日から金曜日の家庭学習の時間については、1時間以上学習している児童が60.3%と全国の平均を上回るものの、県の平均を2.9ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
根拠をあげて自分の考えを述べたり、挙げられた考えの根拠を考えることに関する問題の正答率が低い。	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にすることを意識的に指導する。	授業で学んだことを、他の教科でも生かすような指導に努める。 学習したことをまとめる活動では、学年に応じて、キーワードや条件などを設定して書くようにする活動を取り入れることにより、自分の考えを分かりやすく伝えるスキルを身に付けられるようにする。 また、自分の考えを書いたり述べたりする際には、その根拠となる事項を明確にすることを、授業の中で意識して扱うようにする。